

110. <温暖化雑感>

丸の内線国会議事堂前駅の2番出口に面した道路には銀杏の街路樹がありますが、そのうちの一本に駅構内から出口に向かって吹き抜ける暖気がまともにあたります。この影響で冬の到来とともに葉の落ちた周りの銀杏とは対照的に1月になっても青々とした葉が茂っています。この樹が季節はずれの暖かな環境に適応して葉を茂らせている健気さを感じつつもこの姿が温暖化による植生への影響を具現したものと思ったのは数年前のことでした。

もう、40年近く前の話になりますが、秋に入っていつまで半そでの服装で耐えられるか試したことがあります。最近では、10月はともかく11月でも街なかで半そで姿の人を見かけますが、当時は9月の下旬が我慢の限界でした。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉も満更でもないものだと妙に納得したことを記憶しています。

ところで、今年の冬はこの数年と比べて一段と寒く、寒さが身にしみる日が続いています。日本海側では大雪に見舞われるほどの厳しい冬です。そろそろ寒さも緩んでほしいと思いつつも久々の冬らしい冬に一方で安心している自分がいます。気候の変動に起因するのかどうかは分かりませんが、夏の気温の異常な高さ、冬の気候の穏やかさ、こうしたことが続いている昨今では温暖化への危惧を抱かざるを得ません。

COP17では具体的な合意が得られませんでした。地球規模で進んでいるといわれる温暖化に対して、我々も無関係ではられません。温暖化ガスを大量に排出する下水道事業に携わる者として、温暖化の対策を講じていくことが課せられた役割であると思いつつ、少しでも世の中の期待に応えていきたいと思っています。

<理事 宇田川孝之>

※ J S 技術開発情報メール No. 124 号(2012/3/6)に掲載